兵庫県病院協会

会　報

● 発行 ●
兵庫県病院協会
〒651-0086
神戸市中央区磯上通
6丁目1番11号
兵庫県医師会館7F
TEL (078) 251−3030
FAX (078) 251−3011
会報編集委員会
印刷　株式会社 七旺社

目　次

― 巻頭言 ―

アジアにおける日本の地域医療と病院が果たす役割
　兵庫県病院協会副会長　神戸大学医学部附属病院・前病院長　杉村　和朗 …… 3

― 随　筆 ―

地域医療の要
　兵庫県病院協会理事　赤穂市民病院・病院長　小野　成樹 …… 4

新統合病院に向けて
　兵庫県病院協会理事　兵庫県立柏原病院・病院長　秋田　穂束 …… 5

＝ 会員病院紹介 ＝

医療法人社団顕修会　すずらん病院・病院長　稲見　直那 …… 6

兵庫県立柏原病院・病院長　秋田　穂束 …… 9

＝ 事務局短信 ＝

平成26年度（第64回）定期総会議事録及び記念行事開催報告 …… 12

平成26年度近畿病院団体連合会第１回委員会報告 …… 15

＝ 編集後記 ＝

兵庫県病院協会理事・会報編集委員
姫路赤十字病院・病院長　佐藤　四三 …… 16

〈表紙の写真〉

神戸市立森林植物園（神戸市）

神戸市の六甲山上にある植物園で一九四〇年に開園しました。摩耶山の西に位置する総面積一四二・六ヘクタールという広大な樹木植物園で、周辺は瀬戸内海国立公園に指定されています。日本の代表的な樹木および世界各地の樹木約一二〇〇種を北アメリカ産樹林区、ヨーロッパ産樹林区、アジア産樹林区、日本産樹林区（北日本区・照葉樹林区・日本針葉樹林区）といった原産地別に、自然生態を生かした樹林として植栽展示しています。

各地の森をめぐるような景色を楽しみながら、自然を満喫することができます。梅雨の時期にはあじさい、これからの季節はハナノキ、イロハモミジ、ハゼノキ、メタセコイアなど三十八種約三〇〇〇本もの色とりどりの紅葉を鑑賞できます。花の見ごろに合わせたイベントも開催され、年間を通じて自然と触れ合うことができる場所です。

巻頭言

アジアにおける日本の地域医療と病院が果たす役割

兵庫県病院協会　副会長
神戸大学医学部附属病院
前病院長　杉村　和朗

今年の１月、インドのアーグラという町に行ってきました。インドに行く機会は何度もあったのですが、インドに行って体調を壊さないで帰ってきた人は見た事が無いとか、シャワーの水が口に入ると危険なのでミネラルウォーターで髪を洗えというような話を長年聞いてきたので、ずっと避けていました。今年９月にアジアオセアニア放射線学会を神戸で主催するにあたって、大国であるインドの学会で宣伝する必要があるため、意を決して渡印したというのが実情です。

ニューデリーに夜遅く着いたので、その日はホテルで一泊し、翌日アーグラまで車で３時間の旅をしました。ごく最近出来たという高速道路。100キロで走っている隣を、どういう訳か馬車も走っているし、片側３車線の道を何事も無く人が横断して行くのを見て「さすがインド」と感心しながらアーグラに到着しました。高速を降りると突然でこぼこ道。道ばたのバラックをかすめ、闊歩している野良牛、野良羊はもとより、野良猿をよけながらゆっくり進みます。アーグラは有名なタージマハールがある観光地ですが、町を流れるヤムナー川は世界で最も汚れている川の名に恥じない状況で､鉄橋を渡ると川面に多量のゴミと泡、大河なのに悪臭が漂ってきます。

しばらくバラック街を走ってホテルに到着。敷地を鉄格子で囲った中に瀟洒な建物がありますが、入り口で車の下までセキュリティチェック。鉄格子の中と外の余りの違いに、不安を感じました。昨年神戸大学とバングラデシュ第二の都市であるチッタゴン医科大学の大学間協定のためにダッカ、チッタゴンに行ったのですが、ホテルは入り口のボディチェックだけでした。貧富の差の拡大が治安の悪化に繋がる事が良く理解できます。道はでこぼこで泥だらけ、側溝からはメタンガスがポコポコと噴出し､川から悪臭というのは、これほどではないにしても、昭和20年代に生まれた身としては、全く知らない訳でもないという気持ちで眺めました。

インドが、バングラデシュが、10年後、20年後どのようになっているかは分かりませんが、我々としては日本をモデルにして進歩してほしいと思っています。その日本が少子高齢化のもと、医療人の育成、地域医療、健康保険制度、介護保険制度等々で、右往左往している印象です。医療制度は、国ごとで最も差が大きい制度です。しかしながらアジアのリーダーとして、医療・介護機能再編を経て、日本がアジアにおける成功モデルを提示していかねばなりません。下水道を整備し、川を浄化する事、公衆衛生を充実させる事は日本の指導が役立ちます。それ以降の医療、福祉制度については各々の国の実情によって大きく違うとは思いますが、幸せな成熟社会を作るにはこうあるべきという例示をして行くのが日本の責務だと思います。

こういった状況の中で、病院が果たす役割は当然大きく、その集団である病院協会の発言力を強くして行く事は、国民の幸せと、アジアに数多くある発展途上国の将来にも大きく関わってくる事です。今回示された地域医療ビジョンでは、まずは役割分担を通じた効率的な医療体制の構築に基づく病床コントロールのプランが提示されています。７対１看護による機能分化の目論みが外れ、今回は異なる側面から医療機能分化を推進しています。この制度の成功には、病院が最も大きな役割を果たすべきですので、病院協会をあげて制度設計に発言して行くべきだと考えています。医師並びに医療スタッフ養成機関としての神戸大学は、この制度に基づいて出来た機能分化をした病院の医療提供体制を支える医療従事者の確保、養

成等に貢献して行きたいと考えています。この目的を達成するための方策の一つとして、この４月に地域医療活性化センターを設立しました。本センターは地域枠の学生、養成医を中心に、今後必要性が益々高まってくる総合医並びに地域医療に理解のある医師の教育、サポートを主たる業務にしています。それに加えて、病理や放射線診断といった病院機能の充実に不可欠な業務のサポート、地域格差を出来るだけ少なくするためのトレーニングセンター、コメディカルの教育･育成、女性医師や看護師の復帰支援等の業務を行なっています。

神戸大学としては、人材育成、供給、教育といった大学のミッションを果たして行く事を通じて、地域医療ビジョンの成功に貢献して行きたいと考えています。今後とも病院協会の一員として、宜しくお願い致します。

随　筆

地域医療の要

兵庫県病院協会　理事
赤穂市民病院
病院長　小野　成樹

私どもの病院は西播磨医療圏域に属し、兵庫県の中でも人口当たりの医師数が最も少ない二次医療圏です。医師数だけでなく診療科が充実している病院も少ない状況です。それどころか西播磨医療圏域の中には病院が一つもない自治体もあります。医師不足、看護師不足の波は今も大きく打ち寄せ続けており、厳しい病院運営を余儀なくされています。兵庫県は神戸や阪神間を中心に発展してきました。県庁が兵庫県の中心ではなく、南東部に位置するために北部や西部へ十分な光が当たらない原因ではないかと思っています。さかのぼって明治の時代に播磨にもしも医科大学ができていれば西播磨の様相はずいぶん違ったであろうと東京大学の上教授が指摘されていましたが、まさにそのとおりであると思います。日本全体で人口が減少し、ピラミッド型の年齢分布も既に崩れており、人口減、高齢化は田舎では自治体の存続そのものが危うい死活問題となっています。

国の医療行政も都会を念頭に置いたものでしかないため、後方病院や病病連携という言葉も病院が少ない田舎では絵に描いた餅でしかありません。紹介・逆紹介を推進と言っても特定領域を専門とする開業医の先生がいない領域もあります。がん治療においても連携パスが推奨されていますが、たとえば乳癌を専門とする開業医の先生は我々の地域ではどれだけおられるでしょうか。専門外の患者の診療は大きなストレスを感じます。大病院への紹介状なしでの受診抑制も田舎では厳しいものがあるのではないでしょうか？もっとも500床以上の大病院となると田舎にはない場合が多いので無視されているのでしょうか。いずれにせよもっと地方の実情を考慮した施策を行なってもらいたいものです。

医療費抑制の大目標のための医療行政は合点がいかないことが多くありますが、患者さんはより良い医療を求めて我々を待っているのです。都会も田舎も関係なくベストの医療環境を整えることが必要です。医療の地域格差の存在は患者さんにとっては考えられないことではないでしょうか。病院勤務医がころころと変わって困るという苦情がよく寄せられます。変わるということは退職されても補充があるわけですから我々にすれば万々歳と思っているのですが、最近は退職されても補充ができず診療科の閉鎖や縮小を余儀なくされているのが田舎の病院の常であるということを住民の皆さんは理解されていません。このような実情を行政や大学などはどこまで理解されているのでしょうか。大学に医師派遣を依頼に行っても、ない袖は振れぬで終わります。大学にとってはそれでいいのでしょうが、田舎の病院では八方塞がりの追い詰められた状況でしかありません。この現

状を打破するには人・物の医療資源を地域ごとに再配分し整理する必要があります。二次医療圏ごとに中核病院を中心としたそれぞれの病院、開業医の役割分担を考え、限られた医療資源を有効に使うべく行政も含めて早急に検討する必要があると思います。十分な検討を行ったうえでその結果を踏まえて全県的な将来設計を考えるべきです。

地域格差、診療科偏在の大問題を解決することは至難の業であります。当院は姉妹病院として平成17年に公立豊岡病院と締結以来、県立淡路病院（現淡路医療センター）、広島県三次市立三次中央病院と締結してまいりました。災害時等の相互支援などを念頭に置いたものでした。当院のこの姉妹病院制は全国的には最先端を行くものでしたが、残念ながら現在のところ実効性のないものになっています。しかし、全国的には有効な連携協定がその後いくつも締結されてきています。電子カルテの共有なども東日本大震災の際に石巻市立病院では非常に有効な手段となっていました。県内でも県立尼崎病院と公立豊岡病院で人事交流や合同テレビカンファレンスなどの注目すべき試みが行われています。このように離れた地域との交流が今後を占っているように思います。さらにITの進歩でネットワーク化が次々と進められています。滋賀県では７月に全県型ネットワークを構築しました。また長崎のあじさいネットは先駆的に有名ですが、兵庫県内でも「ｈ－Anshinむこネット」や「北はりま絆ネット」などが構築されていますが、まだまだ十分とは言えず今後の動きを注視しようと思っています。

これからはそれぞれの病院の立場、利害を越えて、特に田舎においては地域医療の将来を見据えた協同施策を実践しなければならない重要な時期に来ていると思われます。微力ながら安心安全の地域医療体制構築のため、更なる努力を続けていきたいと思っていますので皆様のご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

新統合病院に向けて

兵庫県病院協会　理事
兵庫県立柏原病院
病院長　秋田　穂束

平成24年11月に出された「丹波市域の今後の医療提供体制のあり方に関する検討会」からの提言を踏まえ、兵庫県及び日本赤十字社兵庫県支部で慎重に検討を重ねた結果、両病院を統合再編することとし、このたび「県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編基本方針」が策定されました。９月８日には井戸知事が記者会見され、平成30年に県立柏原病院と柏原赤十字病院を統合し、兵庫県が直営する約300床の新病院が丹波の地に開設されることが発表されました。

新病院では県立柏原病院が担ってきた地域の中核病院としての急性期医療と柏原赤十字病院が担ってきた慢性期医療を継承し、急性期から回復期までの幅広い医療を提供することを予定しています。また新病院に隣接して、総合診療外来を行う診療所ならびに健診機能および在宅療養支援機能を有する保健福祉施設も設置します。同施設の運営に関しては、今後丹波市と協議していく予定です。

さらに新病院では地域医療を担う医療人材の育成を大きな柱とします。充実した指導体制やスキルスラボなど研修環境を整備し、若手医師、学生やコメデイカルにとっても魅力ある病院にしていきます。新病院が兵庫県における地域医療教育のメッカとなること、また県養成医のマグネット病院になることを目指していきます。新たな専門医である総合診療医の養成は新病院のみでは不可能であり、関連施設と協力して実施してまいります。

以上の方針に基づき、平成30年の新病院の開設に向け、具体的診療機能や施設整備内容等を定め、

将来にわたり引き続き良質で充実した診療機能等の安定的な提供ができる体制整備を、柏原赤十字病院と連携、協力をしながら取り組んでまいります。

県立柏原病院におきましても、今後いっそう地域の中核病院として、地域の安全・安心を支え、信頼される病院を目指して、職員一丸となって取り組んでまいります。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

会員病院紹介

医療法人社団顕修会

すずらん病院

病院長　**稲見　直那**

顕修会すずらん病院は神戸市北区にて最も南に位置しており、その立地条件を生かして、各三次救急病院（神戸大学医学部附属病院・神戸市立医療センター中央市民病院・災害医療センター）及び近隣医療機関との連携を基に、二次救急病院（一般病床）として24時間365日、救急及び地域医療の受け入れに尽力致しております。

当院の取り組みとして整形外科分野では、スポーツ外来や脊椎外来、膝外来、救急搬送による骨折等の診療に力を入れております。また、各近隣介護系施設（介護老人保健施設・介護老人福祉施設等）における転倒・転落による大腿骨頚部骨折や交通外傷による手術、関節鏡等の手術も行っております。

循環器内科では、急性心筋梗塞等の緊急心臓カテーテル・血管内手術等に力を入れておりIABPの使用・PCPSの導入・稼働により救命率も向上しており、また救命に関する各緊急治療を救急隊員及び他医療機関からの連携を密にすることで、より良い対応を目指しております。

また、循環器疾患の紹介患者様につきましては、治療が終了すれば原則として紹介元の医療機関での通院フォローをお願させて頂いております。

その他、呼吸器疾患や腎疾患の患者様の診療も積極的に行っており、院内透析センター並びに隣接する人工透析診療所（顕修会クリニック）と共に透析患者様の治療にも力を入れております。また入院治療を必要とする透析患者様には院内透析センターにて、外来通院の透析患者様には顕修会クリニックにて環境（患者様の状態に合わせた部屋割り等）を整えた上で透析療法を行っております。また近隣透析クリニックとの連携をより密にし、診療の共有にも力を注いでおります。

外科に関しましては、主として消化器疾患（上下部消化管良悪性疾患、肝胆膵良悪性疾患、炎症

性腸疾患等)、肛門良悪性疾患の外科治療等を実施しております。治療法としましては、腹腔鏡下手術も適応を考慮したうえで積極的に取り入れております。また化学療法にも力を入れており、総合的な観点から患者様主体の治療を進める体制を整えています。

リハビリテーション科では運動器Ⅰ、心大血管疾患Ⅰ、脳血管疾患等、呼吸器Ⅰの施設基準を取っており、疾患別リハビリテーションを行っております。

当院のグループ（医療法人社団修和会、社会福祉法人まなの会）との連携を密に取り、地域連携室と居宅介護支援事業所サンカトレアと共に在宅への早期復帰を実現する努力を図っております。

更に、訪問看護ステーション・訪問リハビリステーション・訪問介護ステーションを開設し、これらによって急性期から慢性期医療・在宅・施設とあらゆるニーズにお応え出来る体制を取り、地域のお力になれるよう病院スタッフ始めグループの職員一同と共にこれからも精一杯努力して参ります。

また、今年度は神戸市北区医師会災害担当部理事に着任しました。災害発生時には出来るだけ多くの救命が出来るよう努力･邁進していく所存です。

病　院　の　理　念

「地域に根差した医療。いつでもあなたを見守ります」を実現する為に、５つの基本方針を掲げています。

・皆様の健康を守り、地域から信頼される病院を目指します
・急性期医療に積極的に対応し、地域社会から喜ばれる病院を目指します
・常に研修に励み、人格・知識・技術の向上を目指します
・明るく、働き甲斐のある職場を目指します
・プライバシーを守り、安心と満足を提供します

病　院　の　沿　革

昭和46年３月	神戸市北区鈴蘭台の地に14床の診療所を開院
昭和53年４月	地域住民の増加に伴い入院施設の増設の必要性が高まり、70床の病院となる
昭和60年１月	83床に増床
平成11年３月	医療法人社団顕修会　設立
平成14年９月	介護老人保健施設カトレア六甲　開設
	デイケアカトレア六甲　開設
平成15年10月	病院設備老朽化に伴い増改築を実施同病院にて透析治療を開始
平成15年11月	顕修会クリニック　開設
	居宅介護支援事業所ケアセンターサンカトレア　開設
平成17年11月	社会福祉法人まなの会　設立
平成18年７月	病院名を顕修会すずらん病院に変更
平成18年10月	介護老人福祉施設カトレア三木　開設
平成19年11月	病院にアンギオ棟を増築
平成21年８月	顕修会クリニックを増築19床の透析有床診療所となる
平成22年４月	特定施設入所者生活介護ケアハウスカトレア神戸　開設
平成26年１月	訪問看護ステーションメディカトレア　開設
	訪問介護ステーションウェルカトレア　開設
	サービス付高齢者向け住宅カトレアロイヤル神戸　開設
	デイサービス シャルールカトレア開設

病　院　の　概　要

所 在 地：兵庫県神戸市北区鈴蘭台西町
　　２丁目21－５
理 事 長：稲見　修
院　　長：稲見　直邦
開　　設：昭和46年３月
診療科目：内科・循環器内科・腎臓内科・呼吸器内科・消化器内科・消化器外科・外科・整形外科・リハビリテーション科・人工透析
病 床 数：83床（一般病床）
救　　急：救急告知病院・第二次救急輪番制参画・医師研修病院参画
健　　診：人間ドック・特定健診・一般健診・企業健診受託・協会けんぽ
診療時間：午前外来診療９時～ 12時（月～土）
　　午後外来診療（専門外来・外科・内科）
　　14時～ 17時（月～金）
　　救急患者は24時間対応
看 護 部：10対１看護基準加算、チームナーシングプライマリーケアの提供
　　地域連携室

アンギオ室

顕修会クリニック透析室

すずらん病院　診察室待合

手術室（整形外科）

兵庫県立柏原病院

病院長　**秋田　穂束**

◆はじめに　～診療機能の充実を目指して～

診療機能の充実には、医師、特に若い“研修医”と“専攻医”が学べる環境を整備し、恒常的に若い医師を確保するシステムを構築することが最もその近道であると確信しています。

そのために教育機能を高めることが最重要課題と考えています。幸い神戸大学医学部の地域社会医学健康講座、内科学講座総合内科学と呼吸器内科学から特命教授をはじめ多数の教員派遣をいただき、総合内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科、消化器外科、泌尿器科の専門医による診療並びに教育支援を受けています。

神戸大学からこれほどの支援を受けている病院は他にはありません。今後はこれに甘えることなく医学教育の要となる総合内科医clinician educator（臨床能力が高く教育のプロ）を充実させ、県立柏原病院を“兵庫県養成医のマグネット病院”にすることを目指しています。

また、医療者にとって働きやすい環境をつくることも大切だと考えています。幸い丹波地域には医療者を守る住民活動が根付いており、医療者にとって働きやすい地域であることを実感し、感謝しているところです。

“教育ほど自信を磨くものはない”という信念を持っています。この病院で“教え”“学ぶ”文化を醸成し、地域の皆さんに信頼され、安心と安全かつ世界標準の医療が提供できる病院を目指していきます。

病院の概要

兵庫県立柏原病院は、兵庫県の中東部に位置する丹波市にあり、阪神大都市圏の近郊にありながら、澄みきった空気と豊かな自然に恵まれた環境にあります。

圏域人口は約11万人、JR福知山線、北近畿豊岡自動車道なども利用でき、交通アクセスにも恵まれています。

名　　称：兵庫県立柏原病院
所 在 地：〒669－3309
　　兵庫県丹波市柏原町柏原5208－１
電話番号：0795－72－0524
開設年月日：昭和28年４月１日
病 床 数：一般病床　303床
診 療 科：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、外科、脳神経外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビテーション科、放射線科、麻酔科、歯科（計17科）
構造規模：RC造５階　延べ床面積30,000㎡

病院の沿革

昭和28年４月　「兵庫県立療養所柏原荘」（結核300床）として発足
昭和40年４月　353床に増床
昭和43年３月　救急病院に認定
昭和48年４月　「兵庫県立柏原病院」に名称変更
昭和59年７月　総合病院の名称承認
平成６年４月　臨床研修病院に指定
平成８年10月　災害拠点病院に指定
平成18年４月　303床に変更（結核病床廃止）
平成20年２月　地域がん診療拠点病院に指定
平成20年４月　へき地医療拠点病院に指定
平成21年４月　兵庫DMAT病院に指定

平成26年４月　緩和ケア病棟開設
平成26年９月　地域医療教育センター設置

◆診療機能の特色

・循環器診療

24時間循環器救急患者の受入を行いながら、虚血性心疾患に対する経皮的冠動脈形成術や下肢動脈に対する血管内治療などのカテーテル治療はもちろん、恒久型ペースメーカー植え込み術などの不整脈治療や下大静脈フィルターの留置など幅広く循環器診療を行っています。

さらに、当地域では高齢者の心不全患者が多く、心エコー検査を中心に心不全の診断から急性憎悪に対する入院加療、心不全再発予防の患者教育、栄養・服薬指導、さらに心臓リハビリと多職種と連携しながら心不全チーム医療を推進しています。

・内視鏡診療

診療部と看護部で構成された内視鏡チームにより、内視鏡検査、内視鏡的治療を積極的に行っています。

特に、上部消化管腫瘍に対する内視鏡的粘膜切開剥離術（ESD）は、年間20件を超える症例の治療を行っており、早期消化管がん患者の福音となっています。

これらの治療には、確実な診断が必要であり、当内視鏡センターでは、上部下部ともに常時、狭帯域画像処理（NBI）を用いた画像強調内視鏡観察が可能であり、消化器がんの早期診断に貢献しています。

・外科診療

胃がん・大腸がんなど消化器がんに対する抗がん治療から、胆嚢結石症・急性虫垂炎・鼠径ヘルニアなどの消化器良性疾患の手術、さらには外傷・熱傷・マムシ咬傷・自然気胸に対する処置まで、幅広く地元のニーズに応える一般・消化器外科を特色としています。

その中でもがん診療地域拠点病院として、消化器がんに特に力を入れています。食道・胃・大腸などの消化管、肝・胆・膵などの実質臓器ともに内科と連携をとりつつ、手術、抗がん剤治療を行っています。胃がん・大腸がんに対しては、低侵襲の腹腔鏡手術を積極的に導入、また適応症例に対しては、胃がんの幽門輪温存手術、下部直腸の超低位前方切除術や括約筋温存手術（ISR）などの治療レベルを保った上での機能温存手術を行っております。

腹膜炎などの緊急手術も地域拠点病院として可能な限りの対応をしています。また、消化器のみならず外傷等にも対応する一般外科として幅広い診療を行っています。

・緩和ケア病棟の開設

平成26年４月に、緩和ケア病棟（20床）を新設しました。がん診療地域拠点病院にできた緩和ケア病棟としては県下初で、主にがんなどの病気に伴う痛みや不快な症状、気持ちのつらさを和らげ、一日一日を大切に生活していただくことを目的に、自宅で療養が難しくなったがん患者さんに「自宅で過ごしているような環境」を提供しています。

今後も、地域のがん患者さんやがん診療に携わる方々の支えになれるような病棟を目指します。

◆地域医療を担う人材の確保

・兵庫県養成医への夏季、冬季・セミナーの開催

神戸大学の協力を得て、兵庫県の養成医学生を迎え、医療体験実習や地域との懇親などを行うセミナーを年２回（夏季及び冬季）開催し、柏原病院や丹波地域の魅力をPRし、将来、柏原病院での勤務を促す取り組みをしています。

・看護師養成セミナーへの講師派遣

丹波市内にある３県立高校で共同実施の看護師養成セミナーに、講師として看護師を派遣し、看護師を志望する生徒を対象に、講義、看護体験を実施し、将来にわたって地元の医療機関で活躍し、地域の看護を担う人材の確保につなげる取り組みを実施しています。

◆地域に開かれた病院を目指して

・柏原病院研修医と地域住民との懇談会の実施

地元自治協議会のご協力を得て、研修医や医師、看護師等の病院スタッフが地域に出向き、研修成果の発表や当院の取り組みをお知らせしています。

地域の皆さんに、地域医療や健康問題に対する理解を深めていただくとともに、地域の実情を話し合い、医療機関と地域住民との信頼関係を高めていく取り組みを進めています。

・柏原病院フェスタの開催

地域の皆さんに病院に来て、見て、身近に感じていただくため、院内の探検や手術体験、健康相談をはじめ、地域の皆さんの参加も得て、職員手作りでの楽しいイベント盛りだくさんの「柏原病院フェスタ」を開催しています。

また、サマーコンサート、クリスマスコンサートなど地元アーティストの協力を得て、癒しの時間も提供しています。

◆病院のこれから

先般、「県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編基本方針」が示され、2018年の新病院の開設に向け、スタートをきりました。

将来にわたり引き続き良質で充実した診療機能等の安定的な提供ができる体制整備を進めつつ、今後一層、地域の中核病院として、地域の安全安心を支え、信頼される病院を目指して、職員一丸となって取り組んでまいります。

引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

本年開設した緩和ケア病棟のディルーム

地域の皆様とともに楽しいフェスタを開催

＝事務局短信＝

平成26年度（第64回）定期総会議事録及び記念行事開催報告

1　平成26年度定期総会

平成26年度（第64回）定期総会は、6月28日（土）兵庫県医師会館２階大会議室において、来賓として、兵庫県健康福祉部長太田稔明様及び兵庫県医師会副会長小澤孝好様をお迎えし、兵庫県病院協会会員、兵庫県知事感謝状受賞者、永年勤続病院職員表彰者等多数のご出席を得て盛大に開催された。

開会に先立ち、事務局から会員数204名のうち、表決委任を含めた出席者が171名であり会則に定める総会の審議･議決に必要な定足数に達していることが報告された。

定刻の午後１時30分、大村副会長が開会宣言を行い、守殿会長の挨拶。引き続き、来賓の兵庫県健康福祉部長太田稔明様から定期総会の開催にあたって、最初にご祝辞を賜りました。続いて来賓の兵庫県医師会副会長小澤孝好様からご祝辞を賜りました。

引き続き、会則に従い守殿会長が議長を努め、議事録署名人として吉田耕造常任理事、小野成樹理事の２名を指名ののち次第に従い議案審議に入った。

最初に、大村副会長が「平成25年度事業報告」を説明した後、第１号議案「平成25年度収支決算」を説明。森村安史監事から監査結果報告を行い、第１号議案は原案どおり承認された。

次に、第２号議案「平成26年度事業計画」及び第３号議案「平成26年度収支予算」について大村副会長から提案説明、両議案を一括審議し、原案どおり承認された。

次に、第４号議案「会則の一部改正について承認を求める件」について大村副会長から提案説明を行い、審議のうえ、原案どおり承認された。

次に、第５号議案「第33期役員（補充）の選任の件」について、守殿議長から提案説明。「会則第９条に理事は総会において選任すると規定されていますが、いかが取り計らいましょうか。」と諮ったところ、議場からの「議長一任」の声を受け、議長から次のとおり、理事候補者の氏名を発表し、異議なく全員承認された。

（理　事）西脇市立西脇病院長　岩井　正秀
〃　公立八鹿病院長　谷風　三郎
〃　順心病院理事長　栗原　英治

次に、三役の選任については会則第９条第２項の規定により、会長・副会長・常任理事は、理事の互選によることから、直近の理事会において、新たに選任された副会長、常任理事の後任者の氏名を次のとおり発表し､異議なく全員承認された。

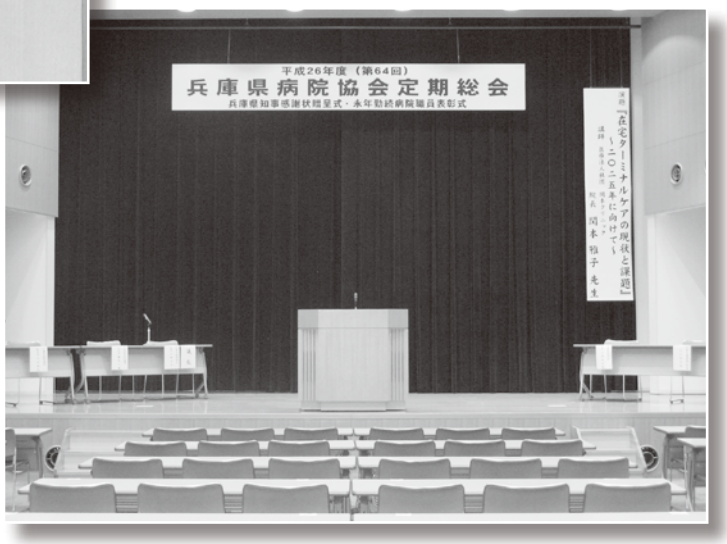
（副 会 長）神戸大学医学部附属病院前院長　杉村　和朗
〃　兵庫医科大学副理事長兼病院事業管理者　太城　力良
（常任理事）神戸市立医療センター中央市民病院　北　徹
〃　石川病院理事長　石川　誠

最後に、藤原副会長が閉会宣言を行い、滞りなく総会を終了した。

開会挨拶（守殿会長）

来賓祝辞（太田部長）

来賓祝辞（小澤副会長）



定期総会風景

2　兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式

定期総会に引き続き、長年にわたり病院職員として勤務され、地域医療に貢献された方々に対し、兵庫県知事感謝状贈呈式及び永年勤続病院職員表彰式が行われた。

それぞれの受賞者のうち出席者の病院、氏名が読み上げられた後、兵庫県知事感謝状については、兵庫県健康福祉部長太田稔明様から、永年勤続病院職員表彰については守殿会長から次のとおり代表者に賞状と記念品が手渡され、両氏からお祝いの言葉をいただいた。

◎兵庫県知事感謝状　51病院　122名
　代表　赤穂市民病院　中田　日早枝様
◎永年勤続病院職員表彰
　①30年勤続　74病院　256名
　　代表　協立病院　岡﨑　智子様
　②20年勤続　109病院　596名
　　代表　神戸海星病院　吉原　康子様

3　記念講演

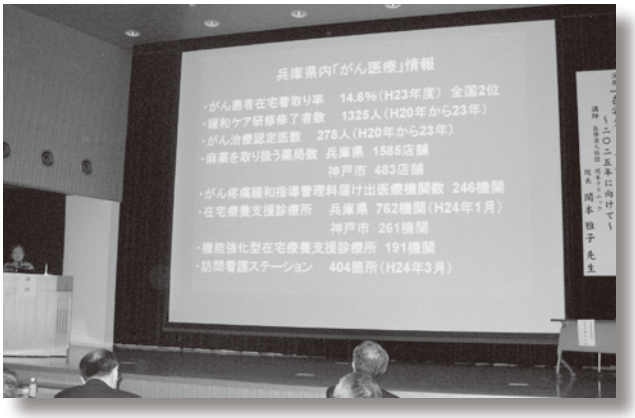
式典終了後、記念講演会を開催した。藤原副会長の開会挨拶に引き続き、大村副会長が座長を務め、講師の関本雅子先生（関本クリニック院長）の紹介の後、「在宅ターミナルケアの現状と課題～2025年に向けて～」と題して、講演が開かれた。

最後に守殿会長からお礼の言葉と閉会の挨拶があり、総会並びに関連行事はすべて終了した。

職員表彰授与

関本雅子講師

知事感謝状授与



会場風景

平成26年度近畿病院団体連合会第１回委員会報告

平成26年度近畿病院団体連合会第１回委員会は、７月25日（金）和歌山県のダイワロイネットホテル和歌山において開催され、当協会からは、守殿会長、藤原副会長、大村副会長、杉村副会長、太城副会長が出席した。

和歌山県病院協会成川会長の開会あいさつに続き和歌山県福祉保健部健康局長の野尻氏の来賓祝辞があり、議事に入った。

１　役員の選出

原案とおり全会一致で承認され、委員長には、成川和歌山県病院協会会長、副委員長には、今川奈良県病院協会会長及び上野和歌山県病院協会副会長が選出された。当協会の守殿会長は常任委員に、藤原、大村、杉村、太城副会長は委員に選出された。

２　協議事項

次の議題について、各協会の意見交換が行われた。

（１）控除対象外消費税問題の対応について
（京都私立病院協会提案）

（２）病床機能報告制度と地域ビジョンへの対応について
（京都私立病院協会提案）

（３）医療・介護サービスの提供体制改革のための新たな財政支援制度（基金）について
（京都私立病院協会提案）

３　報告・情報提供

（１）阪神医療福祉情報ネットワーク「h-Anshinむこねっと」について
（兵庫県民間病院協会報告）

（２）電子カルテシステム共同構築について
（和歌山県病院協会報告）

４　基調講演

「医療法改正を踏まえて」と題して、厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室及び地域医療構想策定支援室の奈倉道明室長補佐の講演があった。

編集後記

今年の夏は経験したことのない局地的な豪雨があり、広島市では土石流で多数の人命も奪われました。兵庫県の丹波市でも大変な水害となりました。またデング熱も国内感染が確認され広がりを心配いたしました。世界に目を向けるとエボラ出血熱が猛威をふるっており、収束の目処が立っておらず、早急の対策が必要です。

杉村先生の巻頭言ではインドでの体験を記され、特に医療制度は国ごとで大きな差があるものの、日本がアジアにおける成功モデルを示す必要性を説かれています。今日本は効率的な医療体制の構築を果たそうとしていますが、これに対して病院協会を上げて制度設計に発言するべきであり、神戸大学としても地域医療ビジョンの成功に貢献したいと力説されておられます。

小野先生の随筆では医師不足、看護師不足に陥っている地域医療を守ることの深刻さを訴えられ、その中でも将来への提言をされておられます。地域での医療の厳しさが痛感されます。秋田先生は県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編について、そして新たな病院の将来構想について説明されています。発展的な統合になることを期待します。

病院紹介では県立柏原病院と顕修会すずらん病院の記事で、それぞれの病院の現状・取り組み、そして将来構想が記され、興味深いものです。

最後に、大変忙しい中ご協力してくださいました先生方、ならびに事務局の方々に心より感謝いたします。

兵庫県病院協会理事・会報編集委員　佐藤　四三
（姫路赤十字病院　病院長）記